

愛知県立日進西高等学校における取組（国語）

—「国語総合」「現代文B」「古典B」における調査研究（2年目）—

1 はじめに

本研究も2年目を迎えた。昨年度は、2年生の古典B及び3年生の古典において、作品の脚本化・実演という言語活動を行い、古典の授業に対する生徒の関心・意欲を高める指導と評価の在り方を模索してきた。本校の生徒の多くは教員の指示に従って真面目に学習をするが、彼らに主体的な学習をさせたいという願いが根底にあった。具体的な実践としては、ひととおり読解した教材を脚本に直して実演し、互いに評価させて理解を深めるという協働的かつアクティブな言語活動を、年間を通じて繰り返し行い、単元の終わりにパフォーマンス課題を設けて評価したのだが、生徒はこの学習活動を大変楽しみ、休み時間を実演の準備に充てるなどして、意欲的に授業に取り組むようになった。また、指導者は、目標を明確にして生徒と共有することにより学習活動が活性化することや、活動後の相互評価、振り返り（自己評価）により生徒の学びが深まることなどについて、理解を深めた。

生徒が驚くほど意欲的に学習に取り組んだ理由としては、次の2点が考えられる。1点目は、協働的な学習活動の楽しさである。指導者の講義を聞いてノートを取る学習活動は受身になりがちだが、グループで脚本をつくり演ずる級友とのインタラクティブな学習活動では、誰もが自然に能動的になり、意見や感想の交換を通して作品理解が深まっていくことを実感できる。2点目は、創造的な学習活動のおもしろさである。テキストを根拠としながらも細部の解釈や表現は生徒たちに任されており、答えは一つではない。より魅力的で説得力のある解釈や表現を追究していく充実感が味わえる。

このような学習活動を積み重ね、授業改善が進む一方で、昨年度は、パフォーマンス評価に関する研究は、あまり進展しなかった。授業には活気が生まれ、生徒が主体的に学ぶ姿が見られたが、そこで生徒がどのような学びを達成しているのか、十分に分析し、評価するまでには至らなかった。評価は目標に即して行うものであるが、目指す生徒像に沿って、目標自体の妥当性を問い直す必要があるのではないかと立ち止まったり、振出しに戻ったりすることも多かった。

また、学習評価には「指導を改善するための評価」と「評定のための評価」とがあるが、「指導を改善するための評価」について、これまであまり意識したことがなかった。授業改善に役立つ形成的な評価と、評定のための評価を、それぞれどのように行っていくのかについても、更に研究を進めていく必要があると感じた。

研究一年目のこうした成果や課題を基に、今年度は、本校の目標とする生徒像及び生徒の実態に即して、国語科として育てたい能力をより具体的に設定し、古典以外の科目でも多様な言語活動を取り入れた実践を行うこととした。昨年に引き続いて、早稲田大学教育・総合科学学術院教授 町田守弘先生の御指導の下、これまでの成果を踏まえて、協働的・創造的な言語活動の実践を継続し、その中で、目標に沿った妥当性・信頼性の高い評価手法の開発を目指した。

2 研究の目的

本校は、校訓「自啓自発」の下、自ら鍛え、学び、自らを高める生徒の育成を目指している。この目標及び生徒の実態に即して、国語科として育成したい資質・能力を具体化し、各単元における学習到達目標を明らかにした上で、ペーパーテストで測りにくい思考力、判断力、表現力、学習意欲、協働性などに関わる資質・能力の育成状況を測るパフォーマンス課題及びルーブリックを開発すること

とした。また、実際に評価を行い、その妥当性・信頼性を高めることによって、生徒の資質・能力の向上を図ろうとした。

3 研究の方法

(1) 協働的・創造的な言語活動とパフォーマンス評価

本校の目標とする生徒像及び生徒の実態に即して、国語科として育てたい能力を、①「人物の心情や情景を読み味わったり、筆者の主張を的確に読み取ったりする力」、②「登場人物の在り方や論者の考え方を踏まえ、他者との意見交換を通して、自分の考えを構築する力」、③「自分の考えを論理的かつ効果的に他者に伝える力」、④「情報を取捨選択して利用する力」に焦点化した。学習指導要領の指導事項との関係で言えば、①は「国語総合」のCのア・イ・ウ、「現代文B」のア、「古典B」のイに関わり、②は「国語総合」のAのウ・エ、Cのエ、「現代文B」のア・ウ、「古典B」のウ・エに、③は「国語総合」のAのア・イ、Bのア・イ・ウ、「現代文B」のエ・オに、④は「国語総合」のAのア、Bのイ、「現代文B」のエに関わる能力である。これに沿って「国語総合」「現代文B」「古典B」の各単元における具体的な学習到達目標を設定し、協働的・創造的な言語活動により能力の育成を図った後、ペーパーテストで測りにくい②、③、④の能力について、パフォーマンス課題とルーブリックを用いて育成状況を測定した。測定結果の検証を通して言語活動及びパフォーマンス課題、ルーブリックの妥当性・信頼性を高めた。

(2) ノートを用いた振り返り活動

毎時間における自己の学習活動を振り返ることが、生徒にとって学びを深める活動になるという考えに立ち、授業ごとに当該時間の振り返りをノートに書かせ、提出させた。年間を通じて継続した振り返りの活動が、生徒自身にどのような力を育んだかを分析し、自己省察の積み重ねが学びを深めるかを検証した。また、振り返りを記したノートを形成的評価の資料とし、指導者の授業改善に役立つとともに、ノートがポートフォリオ評価の資料となり得るかについても検討した。

(3) 年間研究計画(平成27年4月～平成28年3月) ※()内に使用教材、《 》内に育成したい能力(上記(1)参照)を示す。なお下表以外に、週1回の国語科会の中で、本研究に係る校内委員会を開いた。

実施日／内容	実施単元名等
5月 授業実践	3年現代文B「読み比べて小論文を書こう」(新聞5紙)《③④》 3年古典B「孟嘗君にインタビューしよう」(「史記」)《②》
6月11日(木) 第1回研究授業	1年国語総合「小説の読み方を知ろう」(芥川龍之介「羅生門」)《②》 3年古典B「「車争ひ」をワイドショーで検証しよう」(「源氏物語」)《②》
6月25日(木) 授業参観	訪問先：福井県立若狭高等学校
7月7日(火) 第2回研究授業	1年国語総合「登場人物の心情を、表現に即して味わおう」(芥川龍之介「仙人」)《②》 3年古典B「花山院出家事件の舞台裏を再現しよう」(「大鏡」)《②》
9月24日(木) 第3回研究授業	3年現代文B「ピア・リーディングで要旨をつかもう」(内山節「自由論」)《②③》
10月 授業実践	1年国語総合「ジグソー法で小説を読もう」(志賀直哉「城の崎にて」)《②③》 3年現代文B「プレゼンテーションをしよう」《③④》

11月 授業実践	3年現代文B「ピア・リーディングで入試問題を解こう」(大学入試センター試験の過去の評論問題)《②》
11月13日(金) 指導教授訪問	訪問先：早稲田大学教育・総合科学学術院 町田守弘教授
12月7日(月) 研究成果発表会 第4回研究授業	1年国語総合「ピア・リーディングで要旨をつかもう」(安岡章太郎「幸福」)《②》 2年古典B「実演して読みを深めよう」(「大鏡」)《②》 3年古典B「俳句を鑑賞しよう」(「去来抄」「三冊子」)《②③》 研究発表「多様な学習成果の評価手法について」

4 研究の実際

(1) 授業実践

ア 1年国語総合「小説の読み方を知ろう」(芥川龍之介「羅生門」「仙人」)[6月実施]

(ア) 学習指導案(概要)

1 科目	国語総合(2単位)
2 単元名(教材)	「小説の読み方を知ろう」(芥川龍之介「羅生門」「仙人」)
3 単元の目標 (1) 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、主題をとらえたりしようとする。(関心・意欲・態度) (2) 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、主題をとらえたりする。(読む能力) (3) 文の組み立て、語句の意味、用法を的確に理解し、自分の表現に役立てる。(知識・理解)	
4 単元の指導計画(全11時間)	
配当時間	学習活動の概要
1次(2時間)	「羅生門」を読み、初読の感想を書き、場面設定・登場人物像を読み取る。
2次(4時間)	疑問点を挙げながら読解し、下人の心理の移り変わりを読み取る。〈グループ活動〉
3次(1時間)	「羅生門」の主題を考え、文章に書く。〈パフォーマンス課題〉
4次(1時間)	「仙人」を読み、場面設定・登場人物像を読み取る。〈ペア活動・グループ活動〉
5次(2時間) ※本時	「仙人」の主人公の心理について考え、老人の思惑を推測する。〈グループ活動〉
6次(1時間)	3次の作品を読み直し、「仙人」と比較した上で、「羅生門」の主題について、自分の考えをリライトする。〈パフォーマンス課題〉

5 本時の展開

	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	評価の観点
導入	前時の学習内容を振り返り、本時の学習内容を知る。 ・ノートで場面設定を確認する。 ・李と老人の人物像を把握する。	・前時の振り返りノートの一部を、クラス全員に紹介する。 ・ペアで話し合わせ、ノートに記させる。	(2) 読む能力 ・ノートの記述の確認
展開	登場人物の心理を理解する。 ・李の心情の変化に着目する。 ・老人が「こじき」のような生活をしているのはなぜか考える。	・ペアで話し合わせ、ノートに記させる。 ・グループで自由に話し合わせ、意見をノートにまとめさせる。	(1) 関心・意欲・態度 ・ペア活動・グループ活動の観察
終結	本時の学習内容を振り返る。	・学習の振り返りをノートに書かせ、提出させる。	

6 評価手法

- ・第3次のパフォーマンス課題
『羅生門』の主題を考える」（小論文，600字程度）
- ・ルーブリック

観点	評価基準	
小説の主題を捉える。 (読む能力)	A	「羅生門」の主題について、適切な根拠を挙げて、考えを述べることができる。
	B	「羅生門」の主題について、自分の考えを述べることができる。
	C	「羅生門」の主題について、自分の考えを述べることができない。

- ・第6次のパフォーマンス課題
『仙人』と読み比べて、『羅生門』の主題を考える」（小論文，600字程度）
- ・ルーブリック

観点	評価基準	
①読み比べて主題を捉える。	A	「羅生門」と「仙人」の主題について、比較して述べるができる。
	B	「羅生門」と「仙人」の主題について、それぞれ述べるができる。
	C	「羅生門」または「仙人」の主題について、述べるができない。
②読み比べて、作品の内容や表現の特色を理解する。	A	2編を比較し、内容や表現の特色について、感想を述べるができる。
	B	2編の小説それぞれの内容や表現の特色について、感想を述べるができる。
	C	2編それぞれの内容や表現の特色について、感想を述べるができない。

(イ) 授業実践の振り返り

1次から3次までは教科書の教材「羅生門」を使用した。1次では、ワークシートに従って場面設定・登場人物像を確認した後、各自で段落ごとに「問い」と「答え」を考えた。各自が考えた「問い」と「答え」を指導者がまとめ、2次にクラスで共有した。続いて、グループワークで下人の心理の変化についてまとめ、3次にクラスで共有した。その後「羅生門」の主題に関する自分の考えを小論文にまとめた。

4次から6次までは、「羅生門」と同年に書かれた芥川龍之介の「仙人」という小説をプリントして使用した。中国を舞台としているが、登場人物やストーリー展開が「羅生門」によく似ている作品である。4次では、まず各自で本文を読み、登場人物の思惑や心情について、ワークシートの問いに答える形で考え、内容把握を進めた。5次には、4次の問いについての答えを確認した後、「羅生門」との類似点や相違点についてグループで話し合い、ノートにまとめた。まとめが終わった班から順に、代表者がまとめのノートを指導者に見せ、合格であれば次の課題に進むようにした。合格したグループの名を黒板に記していったところ、生徒たちは喜び、競って学習活動に取り組んだ。



グループ活動の様子

3次で書いた小論文に指導者の評価を添え、6次の冒頭に返却した。その後、5次の活動を踏まえて、生徒たちは改めて「羅生門」の主題について小論文を書いた。3次の小論文をループリックにより評価した結果は、80名中、A22名、B17名、C41名であった。C評価の生徒が多かったが、彼らの小論文に綴られている断片的な言葉を見ると、主張したいことはあるが、それを筋道立てて説明する力が不足しているのではないかと思われた。読む能力の育成状況を測るには、書く方法を指導する必要もあると考え、A評価の作品数例を、参考のために印刷して配付した。

6次では、2作品の比較という課題に戸惑う生徒もいたため、3次の反省も踏まえて、書き方の例を示した。ループリックにより評価した結果は、主題や表現において2編を関連付けられる生徒（観点①、②の少なくとも一方がA評価）が41名となり、2編の主題や表現について考えを記すことができない生徒（観点①、②の少なくとも一方がC評価）は12名と減少した。グループでの意見交換を経て繰り返し書くことにより、考えが明確になる生徒が多いこと、書き方の例を示すのが有効であることが分かった。

以下に、3次・6次のパフォーマンス課題がともにA評価（6次については2観点とも）であった同一生徒の作品を示す（資料1、資料2）。

【資料1 生徒作品例（第3次）（A評価）】（生徒作品の表記は原文のまま。以下同じ）

「羅生門」には人間の生きることに對しての強い欲がどう変化していくのかが描かれている。

最初、クビにされた下人は盗人になる勇氣はなかったが、生きることに對する欲（死にたくはない）があった。とりあえず今日一日は生きていようとして羅生門の樓に登った。その羅生門には死人が多くいることも何か作者の意図があると思う。

そして羅生門に登ると、これまた生きることにどん欲で「生きるためなら何をしてもいい」とさえ言っている老婆がいる。この老婆に髪を抜かれている女も「生きるため」に蛇を魚といつわって売っていた。この老婆を見て下人は「死んでもいい」と思うほどに悪を憎みだした。これはたぶん「生きること」にどん欲な人間が、自分と同様の人間を憎むという皮肉を言っているのだと思う。

その後、老婆の論理にあっさりと納得した下人は、迷わず生きるための悪事を働いている。したがって、やっぱり人間は自分が一番かわいくて、他人を不幸にしても自分が生きることが大切なんだよ、と作者はせせら笑っているのだ。最初は生死を決めかねていたのに、結局自分さえ生きればいいという利己的な考えに落ち着く、人間の生きる欲に對する考えを書いた小説だと思う。

【資料2 生徒作品例（第6次、資料1のリライト）（AA評価）】

「羅生門」と「仙人」は同じ作者、同じ時代に執筆された短編小説である。「仙人」も「羅生門」も昔の作品のリメイクであり、作者芥川の手が加えられている。

まず、「羅生門」も「仙人」も大きなテーマは「生きる」だと思う。貧しい人間たちが生についてどんな行動をとっているかが書かれている。さらに、雨が降っていたり、季節が秋の終わりから冬の初め頃であったりと、何かと似ているシチュエーションが多い。

しかし、この二つの小説には違った部分も多く見付けることができる。「羅生門」の下人は仕事をクビにされ、行くあてもなく雨やみを待っていた。それに対して、「仙人」の主人公李小二は鼠を使った芝居でそこそこの金をかせいでいたが、雨で客の入りが悪いので仕方なく雨やみを待っていた。どちらも貧しい様子ではあるが、アテのある李とアテのない下人では「生きる」に対する欲の強さが違うであろう。

そして、一番の違いは周囲の人物である。一見、「羅生門」の老婆と「仙人」の老人（仙人）は似た風ぼうだが、その心中は全く異なっている。老婆は、かなり「生きる」に対する欲が強い。何をしても生きるというこの理論は下人をナットクさせてしまうほど説得力がある。それに対して仙人は、なんと、死がなつかしくなったから人間に化けていたようだ。これには老婆もビックリであろう。この「生きる」に対する二人の欲の強さと方向性の違いがこの二作の決定的な違いだと思う。

最初、「羅生門」は「生きる」に対しての人間の利己的な欲を皮肉って書かれたもので「人間ってバカだなあ」という作者の自虐が含まれていると思っていた。一方「仙人」では「死」と「生」を対比させて「生」の意味を説いている。「仙人」を読んだあとも「羅生門」に対する考えはあまり変わらないが、この二作品は同じ時代に書かれたこともあいまって二作で一つの作品なのではないだろうか。皮肉を込めた「羅生門」、哀れみをこめた「仙人」、どちらを先に読むかで2作の解釈も変わってくると思われる。

イ 3年現代文B「読み比べて小論文を書こう」（新聞5紙）〔5月実施〕

(ア) 学習指導案（概要）

1 科目	現代文B（3単位）										
2 単元名（教材）	社説を読み比べて小論文を書こう（朝日、産経、中日、毎日、読売の新聞各紙）										
3 単元の目標	<p>(1) さまざまな情報を的確に理解し、自分の考えを論理的に表現しようとする。〈関心・意欲・態度〉</p> <p>(2) さまざまな情報を的確に理解し、自分の考えを論理的に表現する。〈書く能力〉</p> <p>(3) 語句の意味、用法を的確に理解し、自分の表現に役立てる。〈知識・理解〉</p>										
4 単元の指導計画（全3時間）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>配当時間</th> <th>学習活動の概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1次（1時間）</td> <td>憲法記念日の社説を読み比べ、憲法改正に対する各社の立場の違いを読み取り、意見を述べる。〈グループ活動〉</td> </tr> <tr> <td>2次（1時間）</td> <td>各新聞社の主張の違いを確認し、他者の意見を読む。</td> </tr> <tr> <td>3次（1時間）</td> <td>① 5月15日の社説の見出しから、どの新聞のものかを予測する。〈グループ活動〉</td> </tr> <tr> <td>※本時</td> <td>② 「憲法改正を考える」というテーマで小論文を書く。〈パフォーマンス課題〉</td> </tr> </tbody> </table>	配当時間	学習活動の概要	1次（1時間）	憲法記念日の社説を読み比べ、憲法改正に対する各社の立場の違いを読み取り、意見を述べる。〈グループ活動〉	2次（1時間）	各新聞社の主張の違いを確認し、他者の意見を読む。	3次（1時間）	① 5月15日の社説の見出しから、どの新聞のものかを予測する。〈グループ活動〉	※本時	② 「憲法改正を考える」というテーマで小論文を書く。〈パフォーマンス課題〉
配当時間	学習活動の概要										
1次（1時間）	憲法記念日の社説を読み比べ、憲法改正に対する各社の立場の違いを読み取り、意見を述べる。〈グループ活動〉										
2次（1時間）	各新聞社の主張の違いを確認し、他者の意見を読む。										
3次（1時間）	① 5月15日の社説の見出しから、どの新聞のものかを予測する。〈グループ活動〉										
※本時	② 「憲法改正を考える」というテーマで小論文を書く。〈パフォーマンス課題〉										

5 本時の展開

	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	評価の観点
導入	前時の学習内容を振り返り、本時の学習内容を知る。	・前時の振り返りをいくつか紹介する。	(1) 関心・意欲・態度 ・グループ活動の観察 (2) 書く能力 ・小論文の記述の分析
展開	情報を整理する。 ・見出しを見て、どの新聞のものを推測する。〈グループ活動〉自分の考えを述べる。 ・「憲法改正を考える」というテーマで小論文を書く。	・班ごとに話し合っ出た結論を根拠とともに発表させ、その後正解を伝える。 ・原稿用紙（横書き）の使い方を確認する。 ・根拠を示すよう指示する。	
終結	本時の学習内容を振り返る。 ・ノートに本時の振り返りを書く。	・小論文の提出期限を示す。 ・ノートを提出させる。	

6 評価手法

・パフォーマンス課題

「憲法改正についての考えを記そう」（小論文，800字程度）

・ルーブリック

観点	評価基準	
①目的や課題に応じて、自分の考えを論理的に表現する。	A	テーマに対する自分の意見を、適切な根拠を挙げて記すことができる。
	B	テーマに対する自分の意見を、根拠を挙げて記すことができる。
	C	テーマに対する自分の意見を記すことができない。または論点がテーマからそれている。
②目的や課題に応じて情報を分析・整理し、自分の表現に生かす。	A	多様な情報を分析・整理して、自分の表現に生かすことができる。
	B	情報を分析・整理して、自分の表現に生かすことができる。
	C	情報を分析・整理して活用することができない。

(イ) 授業実践の振り返り

この実践に入る前に、生徒たちは、新聞記事を読んでノートに意見を書き、相互評価をする（他者のノートにコメントを書く）活動を3回行った。新聞を読む習慣のなかった生徒たちが時事問題に関心を持ち、自宅の新聞を手取るようになったところで実践を始めた。

1次では、生徒たちは5紙の社説を読み、憲法改正についての各社の立場及び主張をグループでまとめ、さらに各自の意見をノートに記して提出した。2次では、1次の各グループのまとめをクラスで共有し、また、賛成・反対それぞれの立場の意見を各1例取り上げて、皆で読んだ。5紙の読み比べは生徒にとって衝撃的だったようである。自宅でスポーツ紙以外に2紙以上を購読している生徒はおらず、新聞に目を通す習慣のある生徒でも他紙まで読むことはない。そのため、生徒たちは、新聞によって立場や主張が違うことを知らずにいた。その日の生徒たちの振り返りには、「〇〇新聞一筋と

いうのはよくないなと思った。情報の真偽を確かめるときには、多方面から見ていきたい」などの感想が書かれており、読み比べによって、生徒たちのものの見方や考え方が広がったことが分かる。

3次では、5紙の見出しを見て、どの新聞のものかを推測する活動を行った。生徒たちは社説を分析したノートを読み直し、グループで討論して解答を考え、正解が発表されると大変盛り上がった。その後、パフォーマンス課題として、「憲法改正について考えよう」というテーマで小論文を書いた。指導者は「問題提起→本論→まとめ」の型を提示し、社説の文章などを参考にするよう指示した。提出された小論文を評価した結果、観点①については、A28人、B9人、C3人となり、根拠を示して自分の主張を述べる力については、多くの生徒がもっていることが分かった。しかし、その根拠は社説から引用したものが大半で、情報を分析・整理して活用するという観点②については、A6人、B12人、C22人となった。情報を自分なりに分析・整理し、それを生かした論を組み立てるといった課題を設けて、書く練習を重ねる必要があると感じた。

小論文を返却する際に、評価の高かった生徒のものを参考として印刷し、配付した。生徒たちは参考作品と自分の小論文とを比較し、自分の作品に対する振り返りをノートに書いた。その振り返りは的確に自作を評価しており、このような実践を繰り返すことで書く能力が育成できると感じた。

以下に、観点①、②ともにA評価であった生徒の作品（資料3）と、観点①、②ともにC評価であった生徒の作品（資料4）を示す。資料4は、〈注1〉の問題提起がテーマからそれぞれであり、また〈注2〉の記述をはじめとして説明不足の部分が多く、論理的に展開されているとはいえないので、観点①がC評価となっている。また、観点②についても、〈注3〉の記述は資料の情報を正しく読み取っておらず、資料の分析・活用ができていないと言えないので、C評価となっている。

【資料3 生徒作品例（AA評価）】

近年、憲法改正についての話がテレビや新聞でも多く上がっている。その中で、憲法9条を改正することは戦争ができる国にしてしまうことだという意見もある。果たしてそうなのだろうか。

たしかに、一見すると、世界で一番平和的な憲法9条を改正することは「戦争ができる」、集団的自衛権を認めることは「海外で戦争ができる」ということだという見方もできる。

しかし、自分はそうは思わない。なぜなら、実際に戦力を保持し、集団的自衛権を認めている国が戦争をしているわけではないからだ。恐らく、大多数の国が戦争をしていないだろう。さらに、戦力を保持するということは、他国を牽制し、領域を侵され、攻め込まれないための予防にもなるだろう。日本では、領海・領空に他国船、他国機が入ってきても警告が精いっぱいという状況であるが、憲法が改正され、戦力の保有が可能になれば、領域を侵されるといった事態も無くなっていくだろう。

また、憲法改正の中でも大きく注目を浴びている集団的自衛権についてだが、確かに戦争に巻き込まれる危険性は高まるであろう。そのようなことはあって欲しくない。しかし、現代の国際情勢では、一方的に他国に守ってもらおうと言うことは難しく、国防上、外交の面でも仕方がないことなのではないだろうか。また、9条を改正すると徴兵されるといふ声も聞かれる。しかし、実際は軍を持っていても徴兵制が無いという国は多い。

もちろん、日本国憲法、特に9条が担ってきた役割は非常に大きく、その原則は世界に誇れるものである。よって、この原則を最大限残しつつ、時代に合った改正をし、今までとは異なる形で国際平和に貢献していくべきではないだろうか。そして、何よりも私たち一人一人が情勢を理解し、常に関心を持ち、自分の意見を持って憲法改正の意義を考え、政治に参加していくことが大切であると考えている。

【資料4 生徒作品例（CC評価）】（下線及び〈注〉は指導者による）

最近、ニュース等で「日本国憲法第9条改正」について取り上げられ、問題視されており、軍備拡大や集団的自衛権など、さまざまなことが言われている。しかし、本当にその拡大は、果たして必要なのだろうか。〈注1〉

たしかに、現状、アメリカの軍隊に依存して、守られているばかりではある。しかし、憲法改正を少しでもしてしまえば、日本は、現在ある日本とは、全く別の国になってしまうと思う。〈注2〉集団的自衛権の範囲を広げれば広げるほど、国外でのトラブルや、他国間の問題から巻き添えをくらうかもしれません。そうなれば、もしかしたら戦争に発展する可能性もあるし、自国にも被害が及ぶかもしれません。こうなると、昔の歴史を繰り返すことになり、平和だった今の日本の面影がなくなってしまいます。

そもそも、憲法第9条「平和主義」というのは、平和を維持するために作られたものです。その背景には、約70年前に起きた、第2次世界大戦があり、その悲劇を繰り返さないように、憲法に「平和主義」が組み込まれました。これまでに、自衛隊も正当防衛として、紙一重で、憲法に整合している〈注3〉という理屈が成り立っているとされてきました。しかし、安倍晋三政権は、今までの政府見解を破壊し、「専守防衛」を根本から覆し、憲法第9条に反している内容にしているのです。まずその前に、憲法というのは、権力を縛って暴走させないようにするためのものであり、それを自ら縛りを解くようなやり方は、明らかに立憲主義からの逸脱です。そんなことで、私はいいとは思えません。そんなに、政府の思い通りになるような憲法はもはや憲法ではないです。

以上より、憲法は、政府だけのものではなく、国民のものであると、私は思います。そのためには、一人一人の意見を政治に取り入れるべきだと思います。

ウ 3年現代文B「ピア・リーディングで要旨をつかもう」〔9月実施〕

(ア) 学習指導案（概要）

1 科目	現代文B（3単位）						
2 単元名（教材）	ピア・リーディングで要旨をつかもう（内山節「自由論」第9章）						
3 単元の目標	<p>(1) 文章の構成，展開，要旨などを的確にとらえ，その論理性を理解しようとする。〈関心・意欲・態度〉</p> <p>(2) 文章の構成，展開，要旨などを的確にとらえ，その論理性を理解する。〈読む能力〉</p> <p>(3) 文の組み立て，語句の意味，用法を的確に理解する。〈知識・理解〉</p>						
4 単元の指導計画（全4時間）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>配当時間</th> <th>学習活動の概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1次（3時間） ※本時2時間目</td> <td>本文を三つに区切り，1時間に一つのパートを読む。ピア・リーディングで本文の読解を進め，要旨をまとめる。〈ペア活動〉</td> </tr> <tr> <td>2次（1時間）</td> <td>前時に各ペアがまとめた要旨の一覧をクラス全体で読み，内容を共有した後，「日本と欧米のさまざまな違い」というテーマでエッセイを書く。〈パフォーマンス課題〉</td> </tr> </tbody> </table>	配当時間	学習活動の概要	1次（3時間） ※本時2時間目	本文を三つに区切り，1時間に一つのパートを読む。ピア・リーディングで本文の読解を進め，要旨をまとめる。〈ペア活動〉	2次（1時間）	前時に各ペアがまとめた要旨の一覧をクラス全体で読み，内容を共有した後，「日本と欧米のさまざまな違い」というテーマでエッセイを書く。〈パフォーマンス課題〉
配当時間	学習活動の概要						
1次（3時間） ※本時2時間目	本文を三つに区切り，1時間に一つのパートを読む。ピア・リーディングで本文の読解を進め，要旨をまとめる。〈ペア活動〉						
2次（1時間）	前時に各ペアがまとめた要旨の一覧をクラス全体で読み，内容を共有した後，「日本と欧米のさまざまな違い」というテーマでエッセイを書く。〈パフォーマンス課題〉						

5 本時の展開

	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	評価の観点
導入	前時の学習内容を振り返り、本時の学習内容を知る。	前時に各ペアでまとめた各段落の要旨の一覧を全員に配付し、前時の内容を振り返らせる。	(1) 関心・意欲・態度 ・ペア活動の観察 ・相互評価の記述の確認 ・振り返りの記述の確認 (2) 読む能力 ・要旨の記述の確認
展開	A, B二人のペアで本文の続きを読む。 ①Aは第5段落の文章を5分で読む。Bは本文を見ない。 ②Aは第5段落の概要をBに説明する。 ③BはAの説明を再現し、疑問点について質問し、Aが答える。 ④役割を交替し、第6段落を読む。 ⑤ワークシートにより相互評価する。 ⑥ペアで内容を振り返り、各段落の要旨を30字程度でまとめる。	①Aに、文章に線を引きながら読むよう助言し、Bには自習しているよう指示する。 ②Bにメモを取るよう助言する。 ④次の段落に進んでいないペアには、役割交代を促す。	
終結	本時の学習内容を振り返る。 ワークシートの問いの答えをノートに記入し、本時の振り返りをノートに記す。	次の授業日の朝に、ノートを提出するよう指示する。	

6 評価手法

・パフォーマンス課題

「日本と欧米のさまざまな違いについて、考えを述べよう」（エッセイ、600字～800字）

・ループリック

観点	評価基準	
文章を読むことを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深める。	A	課題に沿って適切なテーマを設定し、本文を踏まえて自分の考えを述べることができる。
	B	課題に沿ってテーマを設定し、根拠を挙げて自分の考えを述べることができる。
	C	課題に沿ったテーマを設定することができない。または、根拠を挙げて自分の考えを述べるできない。

(イ) 授業実践の振り返り

アクティブ・ラーニングの研修会で、ユニークな言語活動に出会った。ペアの一方がテキストを読み、内容を知らない他方に概要を説明する活動を、役割を交代しながら繰り返し、テキストに対する互いの内容理解を促進するというものである。この活動は、その研修会においては「ピア・リーディング」と呼ばれていたが、調べてみると、一般にピア・リーディングと呼ばれるものとは少し異なることが分かった。池田玲子・館岡洋子の『ピア・ラーニング入門』によれば、ピア・リーディングは日本語教育の場で生まれた手法であり、グループのメンバーがそれぞれ異なるテキストを読んで情報を持ち寄る「ジグソー・リーディング」と、グループのメンバーが同じテキストを読んで理解を深め

合う「プロセス・リーディング」に分類できるという。また、グループの一人が文章を読み、その文章について、内容を知らない他のメンバーに説明する活動は、英語教育で用いられる「リテリング（再話）」という活動に似ている。このジグソー・リーディングとリテリングをミックスしたような言語活動を、ここでは便宜的に「ピア・リーディング」と呼ぶことにする。

ピア・リーディングは、当初、話す能力・聞く能力を育てる言語活動として用いる予定であったが、実践を始めると不都合が生じてきた。読み手がうまく説明できるか否かは、テキストの内容理解に大きく関わっており、読解ができなければ話す活動に進めないことが分かった。

一方、指導者の意図に関わらず、生徒たちはこの活動に大変真剣に取り組んだ。ペアの片方だけがテキストを読むため、読み手の側には、聞き手に伝える責任感や、内容読解への緊張感が生まれる。それが集中力を生み、読む能力を育てるようであった。そこで、この言語活動は評論文などを用いて「読むこと」の単元として行うのがよいと考え、単元案を変更した。

1次の学習活動では、ピア・リーディングによって真剣に本文に向き合いながらも、内容理解に苦しむ生徒が多かった。歴史や文化、政治等についての知識が不足しているために、言葉から内容がイメージできないことが原因であった。世界史や倫理などの科目とも連携を図ることができれば、本文理解が進む可能性がある。その方策を探ることも今後の課題だと考える。

2次の学習活動では、生徒たちは、各ペアでまとめた要旨の一覧を読み、クラスで共有した。その後、パフォーマンス課題として「日本と欧米のさまざまな違い」というテーマでエッセイを書いた。以下に、A評価の二人の生徒の作品を示す(資料5、資料6)。ルーブリックの「本文で学習したことを踏まえて述べる」という基準に関わる部分に下線を付した。



ピア・リーディングの様子

【資料5 生徒作品例（A評価）】（下線は指導者による）

日本人がアメリカ人のような綺麗ですごくいい身体になるのは無理だと思っている人が多いだろうが、実はそうではないらしい。

結論から述べると根本的な違いは立ち方である。日本人は全体の8割ぐらいが「農耕民族の立ち方」をしているという。日本は農耕の歴史が長く、かかるとに体重がかかった体勢で休んでいるような立ち方をし、そうすると膝が曲がって猫背になるというケースが多いということだ。私自身も猫背なので、この考え方は納得できる。

アメリカ人はどうかというと、狩猟民族なので前に体重がかかって、いつでも走り出せるような状態が立っている姿勢である。だから、アメリカ人のトレーニングは前に体重をかけてするのに対して、日本人は8割ぐらいの人がドスンとかかるとに体重を乗けてトレーニングするので、全く違う体型になってしまうのである。

アメリカ人のようになりたければ欧米的な立ち方でトレーニングすれば矯正することができる。癖になっているだろうけど、毎回毎回気を付けて直していけば自ずと変わってくるのではないかと思う。

日本と欧米の違いは今回のもの以外もたくさんあると思います。その違いは文化や政治、人間関係などさまざまです。でも、それらのものにはちょっとした原理があった上での違いだと思います。その原理を明らかにしていくことは難しいけれど、考えたいテーマです。

【資料6 生徒作品例（A評価）】（下線は指導者による）

今回、授業で「自由論」を読んで、日本と欧米の違いは主に一神教と多神教の違いから生じているのではないかと思いました。

一神教の思想をもつ欧米は、絶対神が存在し、絶対的真理が存在すると考えます。そこで、物事を白黒はっきりさせたいという考え方が生まれ、例えば、仕事が気に入らない場合などは自分の都合を優先して、不満などをはっきりと言う傾向があるのではないのでしょうか。

一方、多神教の思想をもつ日本は、絶対神が存在しないので、白黒はっきりさせたいという欧米に対して、争いがあると、それぞれの考え方や利害を調整し、折り合いをつけてうまく収めることの方を選ぶ傾向があると思います。例えば、仕事が気に入らなくても、周りの人のことを気にして、不満などは、はっきりと口に出して言えないなどの特徴が生じています。

このような二つの違いが、挨拶などにも現れ、道でただすれちがっただけの人にも人目を気にせず「ハロー」と声をかける陽気で明るい欧米の人々と、人目を気にしてすれ違いざまに軽く会釈する程度の日本人という違いが生まれています。欧米の人はフレンドリーで日本人はシャイだといったイメージが定着したのではないかと思いました。

風土や宗教によって生まれた違いですが、それをわかってお互いの考え方を認め、理解し合うことで、仲を深めることができるのではないかと思いました。

エ 3年現代文B「プレゼンテーションをしよう」〔10月実施〕

(ア) 学習指導案（概要）

1 科目	現代文B(3単位)												
2 単元名(教材)	プレゼンテーションをしよう(内山節「自由論」第9章)												
3 単元の目標	(1) 目的に応じて、収集したさまざまな情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現しようとする。〈関心・意欲・態度〉 (2) 目的に応じて、収集したさまざまな情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。〈話す能力・聞く能力〉												
4 単元の指導計画(全5時間)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>配当時間</th> <th>学習活動の概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1次(1時間)</td> <td>「日本と欧米のさまざまな違いについて、具体例を挙げ、その原因を考える」というテーマに沿って、プレゼンテーション(1回目)の準備をする。〈グループ活動〉</td> </tr> <tr> <td>2次(1時間)</td> <td>発表(1回目)〈パフォーマンス課題〉と相互評価を行う。発表は録画する。</td> </tr> <tr> <td>3次(1時間)</td> <td>2次の録画を見、指導者の講評を聞く。その後、TEDの動画を見て、グループでプレゼンテーションを評価するためのルーブリックを作成する。</td> </tr> <tr> <td>4次(1時間) ※本時</td> <td>「西高の1年生に、今、お薦めのメディア作品を紹介する」というテーマで、プレゼンテーション(2回目)を作成し、グループ内で発表・批評する。〈グループ活動〉</td> </tr> <tr> <td>5次(1時間)</td> <td>発表(2回目)〈パフォーマンス課題〉発表は録画する。</td> </tr> </tbody> </table>	配当時間	学習活動の概要	1次(1時間)	「日本と欧米のさまざまな違いについて、具体例を挙げ、その原因を考える」というテーマに沿って、プレゼンテーション(1回目)の準備をする。〈グループ活動〉	2次(1時間)	発表(1回目)〈パフォーマンス課題〉と相互評価を行う。発表は録画する。	3次(1時間)	2次の録画を見、指導者の講評を聞く。その後、TEDの動画を見て、グループでプレゼンテーションを評価するためのルーブリックを作成する。	4次(1時間) ※本時	「西高の1年生に、今、お薦めのメディア作品を紹介する」というテーマで、プレゼンテーション(2回目)を作成し、グループ内で発表・批評する。〈グループ活動〉	5次(1時間)	発表(2回目)〈パフォーマンス課題〉発表は録画する。
配当時間	学習活動の概要												
1次(1時間)	「日本と欧米のさまざまな違いについて、具体例を挙げ、その原因を考える」というテーマに沿って、プレゼンテーション(1回目)の準備をする。〈グループ活動〉												
2次(1時間)	発表(1回目)〈パフォーマンス課題〉と相互評価を行う。発表は録画する。												
3次(1時間)	2次の録画を見、指導者の講評を聞く。その後、TEDの動画を見て、グループでプレゼンテーションを評価するためのルーブリックを作成する。												
4次(1時間) ※本時	「西高の1年生に、今、お薦めのメディア作品を紹介する」というテーマで、プレゼンテーション(2回目)を作成し、グループ内で発表・批評する。〈グループ活動〉												
5次(1時間)	発表(2回目)〈パフォーマンス課題〉発表は録画する。												

5 本時の展開			
	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	評価の観点
導入	前時の学習内容を振り返り、本時の学習内容を知る。	・前時のノートから、振り返りとルーブリックをそれぞれ数例紹介する。	(1) 関心・意欲 態度 ・グループ活動の観察 (2) 話す・聞く能力 ・プレゼンテーションの観察
展開	発表の準備 ・グループ内で各自のプレゼンテーションを発表し、改善を図る。	・相互批評を通じて、作品をブラッシュアップさせる。	
終結	本時の学習内容を振り返る。	・次時の発表の準備を進めておくよう指示する。	

6 評価手法			
<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス課題 「日本と欧米のさまざまな違い」「今お薦めのメディア作品」（プレゼンテーション、各3分以内） ・ルーブリック 			
観点	評価基準		
①資料を適切に用いて、自分の考えを、聞き手に分かりやすく伝える。（話す能力・聞く能力）	A	資料を適切に用いて、自分の考えを、聞き手に分かりやすく伝えることができる。	
	B	資料を適切に用いて、自分の考えを、聞き手に伝えることができる。	
	C	資料を適切に用いていない。または、自分の考えを、聞き手に伝えることができない。	
②声の大きさやテンポに気を付けて話す。（話す能力・聞く能力）	A	声の大きさやテンポが適切であり、身ぶり手ぶりや表情などを効果的に使うことができる。	
	B	声の大きさやテンポが適切である。	
	C	声の大きさまたはテンポが適切でない。	

(イ) 授業実践の振り返り

実践ウの後に、同じ教材（「自由論」）を用いて、「話すこと・聞くこと」の単元として行った。昨年からはグループワークなどを多く体験してきた生徒たちだったが、2次の発表で、聞き手の顔を見て話せる生徒が少ないことに驚き、こうした体験が欠如していることを痛感した。また、フリップボードの使用を認めたところ、フリップで顔を隠す、フリップに原稿を貼り付けて読み上げるなどの行動が続出した。視覚に訴えるものは効果的だが、形態に工夫が必要だと感じた。

話の内容が伝わっているかを知るために、聞き手に題材、主張、根拠を記録させたところ、ほぼ内容は伝わっていた。話の内容は構成できるが、それを効果的に伝えるスキルがないと分かった。

そこで、2次の発表の録画を皆で見る批評会を行った。指導者の評価では、二つの観点の両方にAが付く発表はなかったのだが、生徒の相互評価ではほとんどがAであり、相手との関係に配慮する生徒の相互評価に難しさを感じた。一方で、生徒たちは自分の映像を見て、「立ち方が見苦しい」「下を

向いている」などの的確な批評をしていた。

その後、アメリカのTEDという講演イベントの映像を視聴した。「人を惹き付ける話し方」という10分程度のプレゼンテーションである。自分のプレゼンテーションの出来の悪さががっかりしていた生徒たちは、いつになく真剣に見ていた。その後、プレゼンテーションを評価するためのルーブリックを作成させたところ、評価の観点として題材を挙げる生徒は少なく、身ぶり・表情・姿勢・抑揚・目線・声の大きさといった項目が列挙された。この活動が奏功したのか、4次の活動では発表者への助言が飛び交うようになった。録画を見て、自分のプレゼンテーションを自ら評価することにより、生徒自身の学びが深まっていく様子が感じられた。

プレゼンテーションは、内容や展開を工夫し、聞き手にとって分かりやすいものにすることが大切だと考えるが、2次（1回目）の発表では聞き手を特に想定しなかったため、それも失敗の原因であろうと考えた。そのため、2回目のプレゼンテーションについては、次のような指示をした。

11月11日に、第2回プレゼンテーション大会を行います。今回のテーマは、「西高の1年生に、今、私が薦めるメディア作品」とします。1回目の反省を踏まえて、ぜひ、準備をしっかりとってきてください。時間は1分以上3分以内。聴衆は40名。資料は、黒板に貼る1枚までとします。

2回目の発表に向けて、生徒たちは、準備段階からさまざまな工夫を凝らしていた。練習をするときにも、班のメンバーと助言し合っていた。今回は事前にスクリプトを作成させたが、それを見ながら



5次のプレゼンテーション

発表する生徒はおらず、目線・話し方・声の大きさ・身振りなどの点で、驚くほどスキルアップしていた。これは、自分たちの発表の映像を見て振り返りをし、さらに一流の実践を見たためであろう。プレゼンテーションの能力を養うには、このような方法が効果的であると分かった。

参考として、5次のプレゼンテーションについての生徒の振り返りを以下に示す（資料7）。

【資料7 第2回プレゼンテーション大会 生徒の振り返り】

- ・今回はメディア作品がお題だったので、調べたり、発表の原稿を考えたりしている時間がすごく楽しかったです。自分の好きな作品を紹介できることが、どれも上手かった理由の一つではないかと思いました。
- ・世界の最先端のプレゼンを見ることが、よい刺激になったと思います。
- ・1回目のプレゼンテーションから2回目のプレゼンテーションまでの成長がすごいなと思いました。
- ・こんな経験は今まで無かったのでけっこう苦労したりしたけれど、将来役に立ちそうだなと思った。
- ・本番で失敗することを避けるには練習を重ねることが大切だとよく分かりました。また、他人に見てもらい、自分では気付かなかったところを知り、修正することも大切だなと思いました。
- ・発表者が、聞き手を意識したプレゼンテーションをしていたのが印象深かったです。

オ 3年古典B 『車争ひ』をワイドショーで検証しよう（「源氏物語」）〔6月実施〕

(7) 学習指導案（概要）

1	科目	古典B（4単位）															
2	単元名（教材）	『車争ひ』をワイドショーで検証しよう（『源氏物語』）															
3	単元の目標	<p>(1) 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとする。〈関心・意欲・態度〉</p> <p>(2) 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。〈読む能力〉</p> <p>(3) 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。〈知識・理解〉</p>															
4	単元の指導計画（全4時間）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>配当時間</th> <th>学習活動の概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1次（2時間）</td> <td>「車争ひ」の内容を読解する。</td> </tr> <tr> <td>2次（1時間） ※本時</td> <td>本文を基に取材メモ、レポート原稿を作成する。〈グループ活動〉</td> </tr> <tr> <td>3次（1時間）</td> <td>①原稿を基に発表する。〈グループ活動〉 ②六条御息所の対応、心情についての感想文を書く。〈パフォーマンス課題〉</td> </tr> </tbody> </table>		配当時間	学習活動の概要	1次（2時間）	「車争ひ」の内容を読解する。	2次（1時間） ※本時	本文を基に取材メモ、レポート原稿を作成する。〈グループ活動〉	3次（1時間）	①原稿を基に発表する。〈グループ活動〉 ②六条御息所の対応、心情についての感想文を書く。〈パフォーマンス課題〉						
配当時間	学習活動の概要																
1次（2時間）	「車争ひ」の内容を読解する。																
2次（1時間） ※本時	本文を基に取材メモ、レポート原稿を作成する。〈グループ活動〉																
3次（1時間）	①原稿を基に発表する。〈グループ活動〉 ②六条御息所の対応、心情についての感想文を書く。〈パフォーマンス課題〉																
5	本時の展開	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学習活動（生徒）</th> <th>指導上の留意点（教員）</th> <th>評価の観点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>導入</td> <td>本時の学習内容を知る。</td> <td>ワークシートを配付し、学習活動の目標を意識させる。</td> <td rowspan="3">(1) 関心・意欲・態度 ・ペア活動の観察 (2) 読む能力 ・ワークシートの記述の確認</td> </tr> <tr> <td>展開</td> <td>取材メモをつくる。〈グループ活動〉 ・ワークシートを使い、ワイドショーのリポーター役ができるよう、取材メモと原稿をつくる。 発表の練習をする。〈グループ活動〉</td> <td>・本文を根拠とするよう指示する。 ・葵上の従者、御息所の従者、御息所の三人には、必ず取材させる。 ・場面の概要と御息所の心情が聞き手に伝わるよう意識させる。</td> </tr> <tr> <td>終結</td> <td>本時の学習内容を振り返り、次時の学習内容（発表）を知る。</td> <td>・発表準備が整っていない場合は、それぞれで進めておくよう指示する。</td> </tr> </tbody> </table>			学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	評価の観点	導入	本時の学習内容を知る。	ワークシートを配付し、学習活動の目標を意識させる。	(1) 関心・意欲・態度 ・ペア活動の観察 (2) 読む能力 ・ワークシートの記述の確認	展開	取材メモをつくる。〈グループ活動〉 ・ワークシートを使い、ワイドショーのリポーター役ができるよう、取材メモと原稿をつくる。 発表の練習をする。〈グループ活動〉	・本文を根拠とするよう指示する。 ・葵上の従者、御息所の従者、御息所の三人には、必ず取材させる。 ・場面の概要と御息所の心情が聞き手に伝わるよう意識させる。	終結	本時の学習内容を振り返り、次時の学習内容（発表）を知る。	・発表準備が整っていない場合は、それぞれで進めておくよう指示する。
	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	評価の観点														
導入	本時の学習内容を知る。	ワークシートを配付し、学習活動の目標を意識させる。	(1) 関心・意欲・態度 ・ペア活動の観察 (2) 読む能力 ・ワークシートの記述の確認														
展開	取材メモをつくる。〈グループ活動〉 ・ワークシートを使い、ワイドショーのリポーター役ができるよう、取材メモと原稿をつくる。 発表の練習をする。〈グループ活動〉	・本文を根拠とするよう指示する。 ・葵上の従者、御息所の従者、御息所の三人には、必ず取材させる。 ・場面の概要と御息所の心情が聞き手に伝わるよう意識させる。															
終結	本時の学習内容を振り返り、次時の学習内容（発表）を知る。	・発表準備が整っていない場合は、それぞれで進めておくよう指示する。															
6	評価手法	<p>・パフォーマンス課題 「六条御息所の対応、心情について感想を述べよう」（感想文、400字程度）</p> <p>・ルーブリック</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>観点</th> <th colspan="2">評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">登場人物の人物像や心情を理解する。（読む能力）</td> <td>A</td> <td>本文だけでなく、時代や人物の背景も根拠にして、登場人物の心情を理解することができる。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>本文を根拠にして、登場人物の心情を理解することができる。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>本文と、登場人物の心情とを結び付けることができない。</td> </tr> </tbody> </table>		観点	評価基準		登場人物の人物像や心情を理解する。（読む能力）	A	本文だけでなく、時代や人物の背景も根拠にして、登場人物の心情を理解することができる。	B	本文を根拠にして、登場人物の心情を理解することができる。	C	本文と、登場人物の心情とを結び付けることができない。				
観点	評価基準																
登場人物の人物像や心情を理解する。（読む能力）	A	本文だけでなく、時代や人物の背景も根拠にして、登場人物の心情を理解することができる。															
	B	本文を根拠にして、登場人物の心情を理解することができる。															
	C	本文と、登場人物の心情とを結び付けることができない。															

(イ) 授業実践の振り返り

昨年から、古典の解釈をグループで話し合う活動を体験している生徒たちであるため、活発なグループ討論が展開された。正妻の立場の葵上を、生き霊となって取り殺してしまった六条御息所について、生徒たちの印象は、初めは悪かった。しかし、本文の解釈をし、葵上、御息所それぞれの立場に立ってグループで検討を重ねるうちに、生徒たちの見方が変わっていった。本文を基に取材メモ、レポート原稿を作成するという課題に取り組んだため、登場人物が実在する人のように思われ、感情移入がしやすくなったためと思われる。生徒たちは、平安時代に取材に行くような気持ちで、作品に向き合っていたようだ。このように、生徒たちがタイムワープをする感覚で古典を読むことができれば、より親しみが増すのではないかと思った。

また、話し合いの中では、「本文にこう書いてあるから…」「当時はこういう風習だったと資料集にあるから…」という発言も聞かれ、自分たちの印象だけで論じるのではなく、本文や参考資料などに根拠を求めていく姿勢が身に付いていることを感じた。



グループ活動の様子

しかし、それらのまとめとして設定した発表の形式については、改善の必要があったと感じている。生徒たちが親しみやすいようにワイドショーの形式を指定したのだが、実は、生徒たちはテレビのワイドショーをあまり見たことがなく、イメージしにくかったようである。司会者・リポーター・コメンテーターなどの役割がよく分からず、グループ討議の結果を発表に反映させることが難しかった。より分かりやすい討論会の形式を生徒に示した上で、実践することが必要だと思った。

パフォーマンス課題として書いた感想文には、生徒たちが話し合いにより内容理解を深めた様子が表れているものが多く、手ごたえを感じた。しかし、中には、非常に中身の濃い討論を展開していたにもかかわらず、感想文にはそれが反映されない生徒もいた。討議のプロセスを振り返り、内容を取捨選択して文章に表現するということができないのである。生徒の学びの深まりは、文章に表現されることによって評価可能となる。思考の過程を振り返り、表現する力を身に付けさせたいと感じた。

以下に、A評価の生徒の感想文を示す(資料8)。ループリックの「本文だけでなく、時代や人物の背景も根拠にして」という基準に関わる部分に下線を付してある。

【資料8 生徒作品例 (A評価)】(下線は指導者による)

「かかるやつれをそれと知られぬが、いみじうねたき」からもわかるように、六条御息所は正妻である葵上よりも早く来て、でもしっかりと愛人であることはわきまえて、人目を忍んでそこにいた。御息所は人目を避けているから、絶対源氏にはバレないだろうと思ってはいるけれど、出し衣をしていたことから、本当は自分だと気付いてくれるのではないかと、隠れていてもわかってくれるのではないかと、期待があったと思う。それとともに、気付いてくれなかったらどうしようという不安も持っていたと思う。そして、実際本文の「さらぬ顔など……おし消たるありさま、こよなう思さる」からわかるように、光源氏は御息所には気付かなかった上に、さらに、他の女を少し見たりしていて、葵上の前ではかっこよく通っていく。そんな光源氏を見て、御息所は私が想像する以上につらかったと思うし、本文にもあるように、葵上に圧倒される自分をすごくみじめに感じたと思う。普通だったら、車を壊され、なおかつ光源氏に気付いてもらえないつらいことが続いたら、行かなければよかったと後悔すると思う。けれども、本文の最後

にあるように、御息所は行ったこと自体は後悔していない。それがありのままの女心だと思った。それだけ真剣に光源氏のことを思っていたんだと感じる。

もし自分がこの立場だったなら、少しは葵上への嫌な気持ちも抱くと思うけれど、御息所はここでは葵上にされたことは言わず、光源氏の輝く美しさだけを言っている。まわりのたくさんの人々に、自分が御息所とバテて、車を壊されて、和歌を詠みながら泣いてしまうところも見られて、きまりが悪かったはずだけれど、それでもやはり光源氏を見てよかったと思うくらい、御息所は光源氏一筋なんだと思った。

(2) 振り返り活動の実践

振り返り活動は、生徒が自分自身の学びの成果を認知することをねらいとして行った。今までも、単元や学期のまとめという形では行っていたが、その振り返りを生かしてきれていないと感じていた。そこで、今年度は、福井県立若狭高等学校の渡邊久暢教諭の実践をヒントに、授業ノートを利用して、毎時の振り返り活動を行うことにした。授業ノートの指導は以下のように行っている。

「その日の授業の『指示書』を配布し、ノートに貼付させる」→「指示書に従って授業を展開する」→「授業後に振り返りを書かせる」→「次の授業日の朝、ノートを提出させる」→「ノートの振り返りを読んで、授業や指示書を修正する」

生徒のノートを毎時間確認するのは、大変な労力を要するだろうと覚悟して、実践を始めた。省力化のため、ノートにはコメントを記入せず、線を引く程度にした。代わりに、授業の冒頭に生徒の振り返りを読み上げ、コメントすることにした。これを継続した結果、ほとんどの生徒が授業前のノート提出をするようになり、振り返りの提出がルーティーンになった。定期考査後にも振り返りをさせているが、生徒は考査の度に前回の振り返りに戻り、自分の学びを見直している。これを続けていくことで、学びが深まるとともに、主体的な学習態度が育つという実感を得た。

以下に、生徒数名のノートから振り返りを抜粋して示す（資料9）。

【資料9 生徒の振り返り：評論を読んで構造図を書く活動について】

4月14日(火)

・評論文の中では、どちらかという読みやすい方で、文章中の何が何を指示しているのか、だいたい理解できました。構造図は、いつも先生が板書するようなわかりやすいものは書けませんでした。自分なりにまとめられたと思います。誰が見てもわかりやすい構造図が書けるようになりたいです。

4月16日(木)

・構造図をうまく書くには、話の流れをつかんで、筆者が何を伝えたいのかを理解することが大切だとわかりました。本当に伝えたいことを正確に抜き出し、要約できるようにしたいです。

4月17日(金)

・クラスの子が上手にまとめた構造図を参考にして書いたら、自分の構造図も思っていたよりも上手にできたみたいで、先生にほめられて驚きました。嬉しかったし、これからも頑張ろうと思いました。そのためにも、読解力とまとめる力をつけていきたいです。

・いつも国語の評論文の問題を解くとき、筆者の一番伝えたいことは何か、何が何の説明をしているかなど、一読しただけではわからなかったけれど、よく読んで、自分でまとめて頭の中を整理することで、本文の内容が理解でき、今日解いた問題も、ほとんど正しい解答ができました。

4月21日(火)

・構造図を書くには、文章をしっかり読んで理解しなければならないので、何度も読んでよく考えてまと

めました。今回の文章は前回よりもまとめるのに時間がかかりました。どことどこが関連しているかを、早く見付けられるようにしたいです。

5月1日(金)

・構造図を書くときに、重要だと思った部分を線で囲んだり、逆接、言い換えなどの接続語に線を引いたりしていたけれど、そうするともう一度読んだときに大切な部分が見つけやすかったので、模試でもやってみようと思います。

5 成果と課題

授業実践ア～オ及び振り返りの活動について考察し、次の3点について、成果と課題を記したい。

(1) 適切なパフォーマンス課題とルーブリックの作成について

適切なパフォーマンス課題とルーブリックを作成するためには、単元の目標（その単元で育成したい力）の具体化・焦点化が大切だということが分かった。

単元のまとめとして行うパフォーマンス課題は、単元の目標の達成状況を見取るためのものだから、その力が現れる課題でなくてはならない。そのような課題を作成するためには、目標をできるだけ具体化・焦点化することが必要である。目標の具体化・焦点化が不十分だと単元の目標、言語活動、評価が整合せず、育成したい学力の育成が難しくなる。

目標の具体化・焦点化について、成功例と失敗例を挙げる。

〈成功例〉授業実践アでは、単元の目標を「文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、主題を捉えたりする（読む能力）」としたが、この目標を更に具体化・焦点化し、目指す生徒の姿を、『羅生門』と『仙人』の主題を比較し、自分の考えを600字程度で記すことができる生徒」とした。二作品を読み比べ、グループで主題について話し合った後で、自分の考えを記すパフォーマンス課題を実施し、①「読み比べて主題を捉える」、②「比較を通して内容や表現の特色を理解する」という2観点により評価を行った。観点①では、小説が何をどのように伝えているのか、適切な根拠に基づいて説明できればA評価、観点②では、2編を関連付けて主題を説明することができればA評価である。作文という課題は目新しくはないものの、この2編の内容及び表現についての生徒の理解状況が文章に現れるので、育成したい力を測るのに適した課題だったと考える。

〈失敗例〉授業実践ウでは、単元の目標を「文章の構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を理解する（読む能力）」としたが、この目標を更に具体化・焦点化して、目指す生徒の姿を、『日本と欧米のさまざまな違い』という課題に沿って適切なテーマ設定をし、本文を活用して自分の考えを述べるができる生徒」とした。ピア・リーディングを用いて教材文の読み取りを行った後、「日本と欧米の相違」をテーマとする600字程度のエッセイを書くことをパフォーマンス課題とし、「人間、社会、自然などについて考えを深める」という観点によって評価した。課題に沿って適切なテーマを設定し、本文を踏まえて自分の考えを記すことができればA評価である。教材文は、一神教の欧州と多神教の日本の文化・社会の差違について記したやや難解な論説文であるが、教材文に触発されて生徒が記すエッセイのテーマ設定及び論の展開から、「人間、社会、自然」について、生徒たちがどの程度深く考えることができたかを判断できると考えた。しかし、生徒たちの課題設定は、日本の文化・風習と欧米のそれとの違いを表層的に捉えたものが多く、教材文の主張を活用しているものはほとんどなかった。B、C評価の生徒は、教材文の読解につまずいたのか、読解した内容の活用ができないのか、指導者には判断できず授業改善にも生かせなかった。教材の理解がエッセイを書く力に反映されない不適切な課題だったと反省している。

以上のように、適切なパフォーマンス課題とルーブリックを作成する際は、育成したい力を具体化・焦点化し、それが課題遂行上どのように現れるかを考えながら、十分検討することが大切である。

補足であるが、具体化した単元の目標を反映させたルーブリックは、指導改善に資する。授業実践イでは、生徒たちは5紙の社説を読み比べた後、パフォーマンス課題として憲法改正についての考えを800字で記した。指導者は①「自分の考えを論理的に記す」、②「情報を分析・整理して用いる」の2観点により作成したルーブリックを用いて評価を行ったが、その結果から、多数の生徒に不足しているのは、資料から適切な情報を取り出して活用する力であることが分かった。目標の具体化・焦点化により適切なパフォーマンス課題とルーブリックを作成し、指導改善に役立てたい。

(2) 思考力・判断力・表現力・主体性・協働性等を育てるグループワークについて

グループワークについては、生徒の活動時間が増えること、主体的・協働的な学習が実現しやすいこと、学習意欲が高まることなどが利点として確認できた。一方で、生徒の学びの実態を指導者が把握しきれず、学習効果を十分に上げることができない場合もあることが分かった。

授業実践エでは、生徒の自己評価・相互評価により発表スキルを高めることができ、指導者が生徒全員のプレゼンテーションを見て評価することにこだわるのは効率が悪いと認識した。この実践は、単元の目標「目的に応じて、収集したさまざまな情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する(話す能力・聞く能力)」に従って、発表原稿や資料を作成し、パフォーマンス課題として2次と5次にプレゼンテーションの実演をする。評価の観点は①「資料を適切に用いて、自分の考えを聞き手に分かりやすく伝える」、②「声の大きさやテンポに気を付けて話す」の2点である。2次の段階では聞き手を意識して話せる生徒は皆無であり、観点②による評価は40人全員がC評価だった。しかし、3次と4次の学習活動において、生徒自身の発表録画と米国の講演イベントの録画を見比べ、プレゼンテーションを評価するルーブリックをグループで作成し、グループ内で新たな原稿によるプレゼンテーションと相互批評を行うことにより、5次のプレゼンテーションは、観点①②ともC評価の生徒が皆無になった。単元の目標と適切な評価基準を示した後は、生徒同士の活動に任せることも、育成したい学力を育てるために必要だと実感した。

しかし、グループ学習には不自由なところもある。授業実践オでは、古典作品の読解についてグループで話し合った後に、登場人物の行動や心情について感想文を書くパフォーマンス課題を実施し、「登場人物の人物像や心情を理解する」という観点により3段階で評価した。この課題には、生徒が作品をどのように理解し評価したかが具体的に表れ、育成したい能力を測る適切な課題となっていたと考える。ところが、グループでの話し合いをしているとき、登場人物の人物像や揺れ動く心情について、活発かつ的確に批評を交わしていたグループの4人全員が、討議の結果をほとんど文章にまとめることができず、B評価やC評価を受けることになった。討議の途中で、指導者が「いいところに気付いたね」「その読みはおもしろいね」等の働きかけをすることができれば、彼らの発言が優れた読みとして形に残った可能性があるが、それができないと価値ある発言も無駄になってしまう。グループでの話し合いや感想の記述を重ねることによって、自分の気付きを文章にして残せるようになることが大切だと思うが、グループの中で望ましい話し合いができていても、その成果が生徒の力として定着することなく消えている場合も多いということに気付いた。話し合いやワークシートをもっと構造化する、授業の最後に、指導者がよい発言を取り上げてクラスで共有するなどの支援が必要だと感じた。

(3) 振り返り活動の効用について

毎時間における振り返りの活動は、以下の①～③の点で学習効果が大変高いことが分かった。①学習内容への関心・意欲の向上：生徒の記述の一部を授業の冒頭で紹介して前時の復習に使ったり、ク

ラスで回覧して読み深めや討議の材料に使ったりすることにより、生徒の関心・意欲が高まった。②指導改善と学び方の改善：生徒の理解度を指導者が把握して次時の学習に反映させたり、生徒自身が自分の学習の在り方を振り返って修正したりすることができた。また、一冊のノートに長期の学習内容と振り返りが蓄積されるので、生徒の学びの変容が具体的に把握でき、ポートフォリオ評価の資料として使うことができた。③生徒の表現力、自己省察力の向上：短時間で自分の考えを記す活動を毎回繰り返すことにより、自分の考えを振り返り、見つめ直し、表現する力が育成された。

特に②、③は、生徒の主体的な学習態度を育て、さまざまな学びに生かせる汎用的な力を生み出すことにもつながった。振り返りの活動は、全ての授業に有効な手だてになると感じた。

(4) 今後の課題

今回の研究を通して、協働的・創造的な学習活動及びパフォーマンス評価は、生徒の発展的・汎用的な学力の育成に有効であることが分かった。しかし、生徒の能力向上に資するためには、「成果と課題」に記したように、その単元で育成を図る学力の焦点化・具体化、ねらいと学習活動の整合、妥当性・信頼性の高いパフォーマンス課題及びルーブリックの作成など、越えるべきハードルがたくさんある。実践を繰り返し、また他者の実践例を参考にして、学習のねらい・学習活動・評価の整合を常に分析的に振り返りながら、更に実践の精度を高めていきたい。

6 おわりに

昨年の研究において課題として残された、妥当性・信頼性の高いパフォーマンス課題及びルーブリックの作成については、さまざまな実践を積み重ねる中で、更に課題が増えてしまったと思う。しかし、学習課題に取り組む生徒たちの生き生きとした表情を見ると、学びを楽しんでいると感じ、大いに勇気付けられる。また、国語科において進めてきた研究実践が、他の教科にも広がってきており、この研究が学校全体のものになっていることにも喜びを感じる。今年度で研究は区切りとなるが、「評価」を大切にしながら、生徒たちが生き生きと主体的に学ぶことのできる学習活動を、これからも追究していきたいと考えている。

参考文献等

- 文部科学省「高等学校学習指導要領」平成21年3月公示
- 中央教育審議会初等中等教育分科会高等学校教育部会「初等中等教育分科会高等学校教育部会審議まとめ ～高校教育の質の確保・向上に向けて～」平成26年6月
- 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程企画特別部会「論点整理」平成27年8月
- 文部科学省 高大接続システム改革会議「中間まとめ」平成27年9月
- 池田玲子・舘岡洋子(2007)『ピア・ラーニング入門 創造的な学びのデザインのために』ひつじ書房
- 田中耕治(2010)『新しい「評価のあり方」を拓くー「目標に準拠した評価」のこれまでとこれからー』日本標準
- 西岡加名恵(2008)『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』明治図書
- 西辻正副(2013)『評価規準をどう生かすか 高校 選択科目編』明治書院
- 町田守弘(2012)『実践国語科教育法「楽しく、力のつく」授業の創造』学文社
- 松下佳代(2007)『パフォーマンス評価ー子どもの思考と表現を評価するー』日本標準

ワークシート①「疑問を挙げてみよう」

「羅生門」をグループで読むための資料 ()組()番

※ 第2・第3・第4段落から疑問を書き出し、それに対する自分なりの答えを書いてみよう。

例 Q: なぜ下人は「猫のように身をちぢめて、息を殺しながら、上の様子をうかがっていた」のだろう？

A: 楼の上に何者かがいることに気づき、相手に自分の気配を悟られないようにしていたから。

ワークシート②「疑問のまとめ」(一部略)

「羅生門」第2段落のなぜ? 1年1組版

- Q1 なぜ下人のことを「一人の男」「その男」と表現したのだろう？
- Q2 「一人の男」が「猫のように身をちぢめ」ているのはなぜか？
- Q3 なぜ死人ばかりと高をくくっていたのか？
- Q4 「やもりのように足音をぬすんで上った」理由は？
- Q5 「うわさに聞いたとおりに」から分かることは？
- Q6 なぜ裸の死骸もあれば着物を着た死骸もあったのか？
- Q7 なぜ死骸が「永久におしのごとく黙っていた」とわざわざ述べたのだろうか？
- Q8 なぜ下人は死骸を見ても冷静だったのか？
- Q9 鼻をおおうことを忘れていた理由は？
- Q10 「ある強い感情」って何？

パフォーマンス課題(6次)指示書

課題・芥川龍之介の二つの小説を読んで、論文を仕上げよう。
『仙人』を読んだ上で、改めて『羅生門』のテーマを考える論文を書きなさい。
【書き方のモデル】

『羅生門』は、大正四年、芥川龍之介二十三歳の時に執筆された、現在も高く評価されている短編小説であるが、この年、彼は『仙人』という題する短編も執筆している。

『仙人』は、どんな話か

という話で、『羅生門』と多くの共通点を持つ作品である。

まず、『仙人』の中の似ている箇所

これは、『羅生門』の似ている箇所

とたいへんよく似ている。

さらに、

いくつかの共通点の指摘ができるように

このように、『仙人』は『羅生門』とたいへんよく似た小説であるが、一方、次のような違いも見られる。

まず、『仙人』の中の違う箇所

それに対して、『羅生門』(で)は、違う箇所

さらに、

いくつかの相違点の指摘ができるように

A 私は、『仙人』を読むまでは、『羅生門』のテーマを、だと考えていた。

芥川龍之介が書きたかったこと(論文より)

しかし、『仙人』との相違点(共通点)を考えるうちに、考えが変わっていった。

『羅生門』のテーマはではなく

新しく考えたテーマ

ではないかと思っただけである。

なぜなら、理由を述べる

B 私は、『羅生門』を読んでそのテーマを、だと考えていた。

芥川龍之介が書きたかったこと(論文より)

『仙人』を読んで、それは、いっそう明らかになったと思う。

なぜなら、『仙人』との共通点(相違点)を指摘しながら、理由を述べる

どちらかで

※比べて読む論文の書き方がわかったので、『杜子春』などと読み比べて感想文も作り！
ただし、いい感想文にするには、自分の体験などを盛り込むと効果的！

本時(5月7日)の指令

- 1 新聞記事にコメントしなさい。三行程度は書こう。
- 2 5月3日の新聞の社説を読み比べ、それぞれの新聞社の立場を書こう。
※憲法改正に対して… 賛成〇% 反対〇% など
憲法について、今、何をすべきだと述べているか。
- 3 本時の振り返りを書きなさい。

本時(5月8日)の指令

- 1 5月3日の新聞の社説を読み比べ、それぞれの新聞社の立場をノートにまとめよう。班で協力しよう。
- 2 5紙を読み比べた感想(本時の振り返り)を書きなさい。
- 3 左の課題が完了したら、進路室前の箱にノートを提出する。※11日期限

本時(5月12日)の指令

- 1 「憲法改正についての社説読み比べのまとめ」を読もう。
 - 2 感想①②を読み、意見を書こう。
- ①理想。戦争がない世の中は全ての人が望むことだ。ただ、現実を見てほしい。今各地で戦争が起きている。日本も例外ではない。中国、韓国に領海侵入されている。つまりやりたい放題だ。そして、もしかしたらいつ武器を持って本場に戦争を始めるか分からない。平和憲法だからと安心している人というのは、現実を起こっている、そして起こりうることから目をそらしているだけだ。日本はアメリカに助けてもらっているが、もしアメリカが助けられぬ状況になったら？助けることをやめたら？日本はどのようなように自国を守るのだろうか。「9条が改正されてしまったら撤兵される！」みたいに思っている人もいるが、そんな可能性はほぼ0%だ。なぜなら、日本国憲法十八条で徴兵制は禁止されているからだ。徴兵を恐れる人はもともと勉強した方がよい。それに多くの国が集団的自衛権をもつが、徴兵制のある国は少ない。アメリカでさえもそうだ。日本人の意識を変えるためには、国民一人一人が自分で憲法を知り、考えることが重要だ。
- ②私はどちらかという改正に反対です。社会のことをあまりよく分かっていない自分だけど、5紙を読み比べて思ったのは、憲法は社会の基盤となるものだから憲法を安易に考えてはいけないということ。改正するにしろしないにしろ、衆参各院や国民の意見が必要不可欠で、決定したら意見がどうであれ従わなければならないので、憲法改正は今の日本の中で本当に大きな問題なんだと改めて感じました。大きな問題だからこそ、96条の発議要件の緩和や「押しつけ憲法論」などの憲法に対する監視と思われることはしてほしくないです。そして、戦後日本が戦死者を出さずに済んだのも、現在の憲法9条のおかげだと思ったので、今の日本を保てるよう、改正はもう少し考えてもらいたいです。
- ※①②の意見に対するコメントを、ノートに書こう。
- 4 「憲法改正」というテーマで小論文を書きます。
※問題提起 → 意見提示 → 展開 → 結論という型で論を展開しよう。
社説やその他の表現をまねしてもOKです。

本時(5月21日)の指令

- 1 テスト返却。平均点は、〇〇.〇点 振り返りを書こう。
- 2 「憲法改正を考える」小論文の振り返りをします。例を見て、自分の文章の振り返りをノートに書きなさい。
- 3 「新聞の読み比べ」のまとめをします。5紙の特徴をまとめてみよう。
「朝日新聞」「産経新聞」「中日新聞」「毎日新聞」「読売新聞」
- 4 左は、5月15日の5紙の一面トップの見出しと社説の見出しです。この日は、国際平和支援法案が閣議決定された翌日でした。どれがどの新聞のものかを考え理由とともに述べてみよう。

A	首相「平和へ切れ目ない備え」	国守れぬ欠陥正すとときだ
B	政権、安保政策を大転換	この一線を越えさせろな
C	安保政策 歴史的転換	大転換問う徹底議論を
D	戦後70年 専守防衛転換	専守防衛の原点に返れ
E	日米同盟の抑止力強化	的確で迅速な危機対処が肝要
- 5 「新聞の読み比べ」の学習について、振り返りをノートに書きなさい。

生徒の振り返り

- 小論文を書くのは初めてで、こんなにたくさん文字数をうめられるのかなと心配だったけど、自分の意見を書いたって割とすぐうまくなってしまいました。書いている途中で何かおかしいなあと思った箇所があったけど、他にもテスト勉強しないといけないという焦りで雑になってしまった気がします。本文のつながりや主旨をうまく伝えられるように書けるといいと思います。
- 配られた文を見て、自分のと比べると自分にはあまり主張がなく、文も成り立っていませんでした。次は主語・述語を明確にして文を書きたいと思う。自分の主張も考えていきたいです。
- 君や△△君の意見を見て、何が伝えたいのかが一回目を通しただけでよく分かった。とても読みやすかった。視野が広いと思った。私は自分の意見を書いてあるだけで、自分の意見を客観的に見る意見が書けなかったの、次は気を付けたい。
- 意見が一つに定まっておらず、文の構成がなっていないかと思った。また、最後の方で暴走しすぎてしまった。
- 所々に多少不自然な点があって、自分はまだまだだなと思った。最初の問題提示のバリエーションが「なぜ〜だろうか。」しか思い付かないので、もっといろんな問題提示の方法を知る必要があるなと思った。
- 問題提起に対する答えがないの、反対意見を論破できていないし、直すべきところがたくさんあると思った。自分の意見が主張しやすい問題提起にするのも大切なんだなと思った。

実践⑦ 「ピア・リーディングで要旨をつかもう」指示書及びワークシート

本時(9月7日)の指令 2学期①

- 1 この単元の目標は「文章の内容や自分の意見を、分かりやすく効果的に相手に伝える」です。
- 2 ペアを組みます。右側の人をA、左側の人をBとします。
- 3 まず、Aはプリントの文章を五分で読みます。文章に線は引きませんが、メモは取りません。
- 4 五分後、AはBに、自分の意見を付け加えて文章の内容を説明します。時間は一分です。
- 5 一分後、BはAの説明を再現し、その後、質問をしてください。Aは答えてください。
- 6 相互評価しましょう。終わったら、今度は、A・B役割を交替して行います。
- 7 それぞれの問いをノートに論じなさい。また本日のふりかえりを！

本時(9月17日)の指令 2学期②

- 1 本日の目標は『自由論』①～④の筆者の主張を理解して、自分の意見をもつ』です。
 - 2 四人(以内)でグループになります。自由に組んでOK。
 - 3 ①～④の内容を、それぞれ三十文字以内で表現します。
「この段落は [] (こと) について書いてある」
 - 4 筆者の述べる「欧米的発想」を整理して理解しよう。
左の言葉を使って、「世界の秩序維持のためには軍力行使もいとわない」という結論に至る流れを、図式化して説明しよう。
- | | | | | | | | | |
|-------------|----|-----|----|-----|----|----|----------------|------|
| 共生 | 秩序 | 拡大系 | 思想 | 循環系 | 思想 | 獲得 | 上級市民 | 下級市民 |
| 理想の個人が存在しうる | | | | | | | 個人の自由を社会の基礎とする | |
- 5 現在、この欧米的発想が生み出したと思われる社会問題をたくさんあげてみよう。
 - 6 本日のふりかえり

本時(9月24日)の指令 2学期③

- 1 本日の目標は『自由論』⑤⑥の筆者の考えを、相手に的確に伝えるように説明する』です。
- 2 前回の授業でまとめた①～④の要旨を検討しよう。プリント参照。
- 3 ⑤⑥をピア・リーディングで読みます。流れは今までと同じです。
- 4 ⑤⑥の内容を、それぞれ三十文字以内で表現します。ペアで相談しながら作ろう。
- 5 ワークシートの問いを考え、ノートに論述しなさい。(課題)
- 6 本日のふりかえり

ワークシート(問い)

- ①「自由と個人の関係は、日本で信じられていたほどには、うまく結びついてこなかった」とあるが、それはなぜか。その経緯を説明し、それに対する自分の考えを述べよ。
- ②ドイツ・フランスがどのように成立したのかを説明し、さらに、それが現代社会の一面であるという点について論じなさい。
- ③「ヨーロッパの近代思想は、なぜこれほどまでに、個人を理想視したのであろうか」に答えよ。
- ④アメリカは世界の秩序維持のために核を保有しているが、それはどのような考え方から生じたのかを筆者の考えに沿って説明し、あなたの意見を書きなさい。

実践⑧ 「プレゼンテーションをしよう」指示書等

指示書

本時(9月25日)の指令 2学期④

- 目標 日本と欧米(西洋)を比較して思考を深める。
- 1 4人程度のグループになって、次のことがらについて考えてプレゼンします。
テーマ「日本と欧米のさまざまな違いについて、具体例を挙げてその原因を考える」
例えば・・・
・「ガンダム」が西欧で人気がないといえます。なぜ?
・西洋の童話にはオオカミが登場するのに、日本の昔話には登場しない。なぜ?
※その他にもさまざまな比較ができると思えます。グループで討論しながらプレゼンしてください
 - 2 本日のふりかえり

本時(10月15日)の指令 2学期⑤

- 目標 よいプレゼンテーションとは何かを考える。
- 1 前回のプレゼンテーションをふり返ります。映像を見て、まず、小林が講評します。よくなつてほしいので、厳しいことを言いますが、めげないでください。
 - 2 次に、皆さんが採点者・面接官だとしたら、プレゼンテーションをどのような項目で評価するのかを考えてください。例えば「A はっきりと大きな声で発声している」「B 声は大きいが開き取りづらい。語尾が分かりづらい」「C 小さな声で聞き取れない」といったように、AB Cの三段階で評価できるような形にしてください。班でワークシートに記入して提出します。
 - 3 本日のふりかえり。(ノートに)

ワークシート

第3学年 現代文B プレゼンテーション	
【 】班 member:	()
第1回プレゼンテーション発表者() 第2回発表者()	
プレゼンテーションの評価基準を作ろう!	
【例】こんなふうに書こう!	
観 点	評価基準
発 声	A はっきりと大きな声で発声している。 B 声は大きいが聞き取りづらい。語尾がわかりづらい。 C 小さな声で聞き取れない。
では、考えてみよう!最も重要だと思おう3つを。	
観 点	評価基準
	A
	B
	C

「プレゼンテーション」

1. プレゼンテーション(Presentation)とは

【目的】①説明して「理解してもらおう」※研究発表など

②説得して「行動してもらおう」※テレビショッピングなど

③楽しませて「満足してもらおう」※結婚式のスピーチなど

※理解, 行動, 満足してほしい内容を具体的に考え, ゴールを明確にすることが大切。

2. 目的とゴール(どうなったら成功したと言えるのか) & 方法

【目的】自分の薦めるメディア作品を理解してもらおう。

【ゴール】自分の薦めるメディア作品を, 西高の1年生に読んで(観て)もらおう。

または, 「読みたい(観たい)」と思ってもらおう。

【方法】1 グループ内でプレゼンを行い, 代表を決める。

2 代表のプレゼンをグループでブラッシュアップする。

3 グループ代表のプレゼンを行い, 録画する。

4 録画を1年生に見せ, 読みたい(観たい)作品に投票してもらおう。

3. 第1段階 ストーリーをつくる

ストーリー	話す内容
始めの挨拶	自己紹介
結論	お薦め作品のタイトル&概要紹介
理由	その作品を薦める理由
追加情報	聞き手から質問がありそうなことなどを追加
結論	作品タイトルを念押し
終わりの挨拶	話を聞いてくれたお礼

※聞き手の立場で考えて, 聞き手にとって分かりやすく納得できるストーリーを!

4. プレゼンテーション資料をつくる

実際は PowerPoint などパソコンで資料をつくることが多いですが, 今回は模造紙など黒板に貼る1枚とします。レイアウトやデザインなどを考えて作成しよう。画像を拡大して貼付したりしてもよい。

5 スクリプトをつくる

「スクリプト」とは台本のことです。大まかな時間配分を考えて台本を作っておくことはプレゼンテーションには大切でしょう。今回は3分を目標に作ってください。

セリフを書いてもいいし, 箇条書きで話すことを書き出してもいいです。

6 練習する 声に出して練習するのが一番!

1回目 時間内に収まるか確認。(メモを見ながらOK)

2回目 メモに頼らず, どのくらい内容が頭に入っているか確認。

3回目 スクリプトに修正を加えて再度練習。

4回目 緩急や要点やキーワードなどの強調・間を意識して練習。

5回目 本番どおりにリハーサル。

プレゼンテーション進行表 3年6組()番 氏名

紹介したいメディア作品:

時間	ストーリー	スクリプト
0分	(準備完了)	
分 秒	始めの挨拶	
分 秒	結論	
分 秒	理由	
分 秒	追加情報	
分 秒	結論	
分 秒	終わりの挨拶	
3分	(プレゼン終了)	

実践例 「車争ひ」をワイショウで検証しよう」ワークシート及びパフォーマンステーマ

ワークシート

『源氏物語』『車争ひ』 ワークシート 組 番 []

美祭での出来事をレポートしよう

関係者に取材をする。取材メモをもとにレポーターとして出来事を報告する。取材対象として, 美上の従者, 六条御息所の従者, 六条御息所の3名には必ず取材すること。

取材メモ

取材対象: ()

パフォーマンステーマ

感想

六条御息所の対応, 心情について感想を書こう。

感想の根拠となる本文の場面と, それをどのように理解したかを明らかにしながら書こう。.....